

第1学年 算数科学習指導案

1 単元名 「ひきざん」

2 単元目標

- 既習の減法計算や数の構成をもとに、11 から 18 までの数から 1 位数を引く繰り下がりのある減法計算の仕方を考えようとする。 (関心・意欲・態度)
- 11 から 18 までの数から 1 位数を引く繰り下がりのある減法計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて表現したり工夫したりすることができる。 (数学的な考え方)
- 11 から 18 までの数から 1 位数を引く繰り下がりのある減法計算が確実にできる。 (技能)
- 10 のまとまりに着目することで、11 から 18 までの数から 1 位数を引く、繰り下がりのある減法計算ができることを理解することができる。 (知識・理解)

3 指導観

- 本学年の児童は、1 学期に加法・減法の意味と記号、繰り上がり・繰り下がりのない 1 位数同士の加減計算、さらに、 $12 + 3$ などの加法、 $15 - 3$ などの減法を学習してきている。
また、2 学期には、20 までの数範囲における繰り上がりのある足し算の計算の仕方を考えるという学習をしてきている。

見通しの活動では、問題文から大事な言葉を見出したり、既習の掲示物を手がかりにしたりしながら、多くの児童が自分で見通しをもって問題に取り組むことができるようになってきている。

見直し活動①では、二人組になり、お互いの考えを伝え合ったり、友達と自分の考えの共通点や相違点について話し合ったりすることが、少しずつできるようになってきている。

見直し活動②では、多くの児童が学習問題で交流したことを生かして振り返り問題に取り組み、正解できている。しかし、「ふりかえりコーナー」では、本時のまとめにつながる内容を書ける児童はまだ少ない。

- 本単元は、11 から 18 までの数から 1 位数を引く、繰り下がりのある減法（減加法・減々法）の仕方を理解し、それを用いることができるようにすることを主なねらいとしている。
具体的には、① 18 までの数の構成や 10 に対する補数に着目して計算の仕方を考えること、② 問題場面をブロックで操作し、そのことを図や式で表現すること、③ 減加法、減々法のいずれかの方法を使って、計算が速く正しくできることである。
また、見通すことに関しては、1 学期に学習した数の合成・分解や引き算を既習として、減加法や減々法の計算の仕方などを考えることができるようになる。見直しことに関しては、ブロックを操作したり、それを図式化したりすることで、計算の仕方について筋道立てて説明したり、友達の考えを理解したりすることができる。と考える。
そして、これらを適用することでよさを確かめ、学習してきたことを見直すことができる。と考える。よって、基礎・基本を身に付ける上から価値ある単元といえる。
- 本単元において、「見通し」と「見直し」の活動における支援の工夫を通して、算数科における基礎・基本を身に付けることができるように以下の手だてを考えた。

【つかむ段階における「見通しの活動」の工夫】

- ・ 児童が既習の内容を振り返り、見通しをもてるようなキーワードを教室に掲示しておく。
- ・ 児童が興味・関心をもつように、児童にとって身近な食べ物を使って学習問題を設定する。
- ・ 児童が学習問題を把握できるように、食べ物の模型を使って学習問題を提示する。

【ふかめる段階における「見直しの活動①」の工夫】

- ・ 児童がいろいろな考え方を知ったり、説明の仕方を学んだり、自分の意見を発表したりできるように、全体交流の前に 2 人組で行う少人数交流を取り入れる。
- ・ 全体交流では、自分と友達の考えの共通点や相違点に気付くことができるように、計算方法に名前をつけたり、計算方法を図式化したりして板書する。

【ふりかえる段階における「見直しの活動②」の工夫】

- ・ 交流活動で得た考えのよさを確かめることができるように、振り返り問題を設定する。
- ・ 児童の言葉で学習のまとめができるように、プリントの「ふりかえりコーナー」に、学習問題と振り返り問題を解いてみて思ったことを記述させる。

4 指導計画 (全14時間)

配時	目標	学習活動	教師の働きかけ
1	○ 繰り下がりのある減法の計算の意味と仕組が分かる。	<ul style="list-style-type: none"> 場面を読みとり立式する。 12 - 7の計算の仕方を考える。 2人組で考えの説明をする。 計算方法を出し合い、いろいろな計算方法があることを知る。 「ふりかえりコーナー」を書き、学習をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に、おかしを取って、どのように7をひくのか見通しをもたせる。 減加法と減々法の違いを式で表し、それぞれの方法にネーミングをする。 ひくたすけいさん (減加法) ひくひくけいさん (減々法)
2 (三組本時)	○ 減数が9の場合の計算に取り組み減加法の理解をする。	<ul style="list-style-type: none"> 場面を読みとり立式する。 12 - 9の計算の仕方を考える。 2人組で考えの説明をする。 ブロックを操作しながら計算の仕方を交流する。 振り返り問題と「ふりかえりコーナー」を書き、学習をまとめる。 減数が9の場合は、減加法が計算しやすいことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に、おかしを取って、どのように9をひくのか見通しをもたせる。 前時で考えた12 - 7の減加法の計算の仕方を想起し、ブロック操作をもとに計算の仕方を言葉と式でまとめる。
3 (二組本時)	○ 減数が8の場合の計算に取り組み、減加法の理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> 場面を読みとり立式する。 14 - 8の計算の仕方を考える。 2人組で考えの説明をする。 ブロックを操作しながら計算の仕方を交流する。 振り返り問題と「ふりかえりコーナー」を書き、学習をまとめる。 減数が8の場合は、減加法が計算しやすいことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に、おかしを取って、どのように8をひくのか見通しをもたせる。 前時で考えた12 - 9の減加法の計算の仕方を想起し、ブロック操作をもとに減加法の計算のよさを言葉と式で深める。
4・5	○ 減加法の理解の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 減数が9・8・7・6で減数と被減数の差が4～8の問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が振り返ることができるように、減加法の計算方法を式や言葉で掲示しておく。
6 (一組本時)	○ 減々法について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 場面を読みとり立式する。 12 - 3の計算の仕方を考える。 2人組で考えの説明をする。 ブロックを操作しながら計算の仕方を交流する。 振り返り問題と「ふりかえりコーナー」を書き、学習をまとめる。 減々法が計算しやすい場合もあることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に、おかしを取って、どのように3をひくのか見通しをもたせる。 第1時で考えた12 - 7の減々法の計算の仕方を想起し、ブロック操作をもとに計算の仕方を言葉と式でまとめる。
7	○ 減々法の理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> 減数と被減数の一の位の差が3以下の場合の問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が、振り返ることができるように、減々法の計算方法を、式や言葉で掲示しておく。
8	○ 減加法や減々法を使って問題を解くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 減加法や減々法で文章問題を解く。 減加法や減々法を使い分ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己選択につまずいている児童には、減加法で解くように助言する。
9 14	○ 繰り下がりのあるひき算の計算能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し計算カードや計算プリントに挑戦する。 	<ul style="list-style-type: none"> つまずいている児童には、ブロックを使って、減加法で解くように助言する。

5 本時 (2/14) 1年〇組教室にて

指導者

6 本時の目標

- 被減数を「10といくつ」に分け、まずその10から減数を引く方(減加法)が計算しやすいというよさに気付くことができる。(数学的な考え方)
- 11~18から1位数を引く繰り下がりのある減法で、被減数を分解して計算する方法(減加法)について理解する。(知識・理解)

7 本時指導の考え方

本時のねらいは、減数が9の場合の減数計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)について理解することである。

児童は前時に、問題場面から立式し、減加法と減々法の違いを整理し、それぞれの方法に「ひくたすけいさん」、「ひくひくけいさん」と名前をつける学習をしている。しかし、減加法や減々法のよさや、どういった場面で活用すると便利かという理解までには至っていない。

そこで、本時の目標の達成を図り、算数科における基礎・基本を身に付けることができるようにするために、見直し・見直しの活動において以下の手だてを考えた。

【つかむ段階における「見直しの活動」の工夫】

- ① 児童が興味・関心をもつように、児童にとって身近な食べ物を学習問題に設定する。
- ② 前時学習の内容の掲示物を振り返り、減加法と減々法があったことを想起させる。
- ③ 問題文を読み、分かっていることや尋ねられていることについて印をつけさせる。
- ④ 自分の考えをはっきりさせるために、2色のカードで計算の仕方を表示させる。

【ふかめる段階における「見直しの活動①」の工夫】

- ⑤ 2人組で行う少人数交流を取り入れ、一人一人が自分の考えを説明することで、理解を深める。一方、聞く方の児童は、実際に相手の操作を見て真似をすることで、自分の考えとの異同をはっきりしたり、友達の考えのよさを理解したりする。
- ⑥ 少人数交流のあと、減加法と減々法それぞれのやり方をした代表児童に発表させる。その後、共通点と相違点について考えさせ、どちらが簡単かに気付かせる。
- ⑦ 減加法の良さに気付かせるために、ブロック操作の速さや、計算式の分かりやすさなどの視点を与える。

【ふりかえる段階における「見直しの活動②」の工夫】

- ⑧ 本時学習のよさ(減数が大きい時は、被減数を分解して計算する)を実感できるように、数値を変えた振り返り問題に取り組みせ、本時の学習のよさを味わわせる。
- ⑨ 減加法のよさを振り返らせるために、学習プリントの「ふりかえりコーナー」に、学習問題と振り返り問題を解いて分かったことやできるようになったことについて記述させる。その発表をもとに、今日の学習をまとめることで、学習した達成感をもたせる。

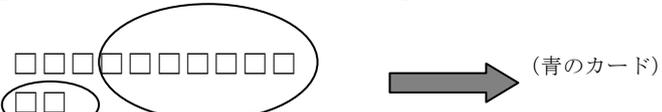
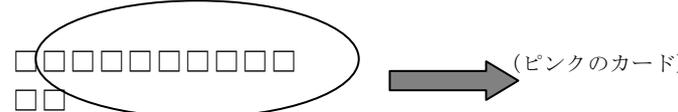
8 準備

教師・・・絵図、おかしの模型、学習プリント、ブロック、既習の掲示物

児童・・・ブロック、カード【青・ピンク色】

9 本時の展開

段階	学習活動と内容	教師の働きかけ(太字は研究に関わる働きかけ)
つかむ ⑩	<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <p>(1) 問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>がくしゅうもんだい おみせにクッキーが 12こ あります。ぱっくんが、9こ かいました。<u>のこりのクッキーは なんこ</u>ですか。</p> </div> <p>(2) 立式する。 12 - 9</p> <p>(3) 本時のめあてを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて 12 - 9のかんたんなけいさんのしかたをかながえよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が興味をもち、問題を把握しやすいように、絵図やお菓子の模型を問題文と一緒に提示する。 ○ 問題を把握するために、大事な数、演算を決める言葉、尋ねてある文、単位に印をつけるように指示し板書する。 ○ 既習との違いを意識させるための掲示物の活用を図る。

	<p>2 解決の見通しをもつ。 【見通しの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほうほう ひくたすけいさんをする。 ひくひくけいさんもつかえそう。 ・どうぐ ブロックを使う。図をかく。 ・こたえ 3こ？ 	<p>○ 見通しがもてるように、本時の学習につながる既習の掲示物を活用する。</p>
<p>つくる ⑩</p>	<p>3 見通した方法をもとに自分の考えをつくる。</p> <p>(1) ブロックを使って操作する。 (2) 操作したことを図や式、言葉に表す。</p> <p>【ばらから (ひくひくけいさん)】</p>  <p>【10のまとまりから (ひくたすけいさん)】</p> 	<p>○ 自分の考えを表現できるように、ブロック図をかいた学習プリントを用意し、問題解決のため必ずブロックを操作してから、図をかくように指示する。</p> <p>○ 机間指導を行い、自分の考えがつかれない児童に対して具体物を順序だてて動かすように声かけをする。</p> <p>○ それぞれの考え方で立式を確認することを確認する。</p> <p>○ 「ひくたす・ひくひく」の計算の違いを区別することができるように2色のカードを活用する。</p>
<p>ふかめる ⑮</p>	<p>4 考えを交流する。 【見直しの活動①】</p> <p>(1) 計算の仕方を2人組で発表し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>発表例 (減々法の場合)</p> <p>はじめに、12を10と2に分けます。はい、どうぞ。</p> <p>次に、ばらから2を引いて10。はいどうぞ。</p> <p>最後に10のまとまりから残りの7を引いて3。はいどうぞ。</p> <p>だから答えは3こです。はいどうぞ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>発表例 (減加法の場合)</p> <p>はじめに、12を10と2に分けてます。はい、どうぞ。</p> <p>次に10のまとまりから9を引いて1。はいどうぞ。</p> <p>最後に残りの1と2を足して3。はいどうぞ。</p> <p>だから答えは3こです。はいどうぞ。</p> </div> <p>(2) 計算の仕方を全体で話し合い、友達の考えをブロック操作をしながら聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひくたすけいさんで ・ひくひくけいさんで <p>(3) 相違点について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(共通点) 答えが3・10といくつに分けて計算</p> <p>(相違点) 10のまとまりから引く・ばらのほうから引く・2回引いている</p> </div>	<p>○ 言葉で説明してからブロックを動かすように指示する。</p> <p>○ 聞く方の児童にも、友達の考えを実際にブロック操作しながら聞くように指示し、自分の考えと友達の考えの異同をはっきり理解できるようにする。</p> <p>○ 机間指導を行い、ブロック操作や説明が途中でつまづいている児童に対して「は・つ・さ・だ」を使った説明の例示をしながら指導する。</p> <p>○ 2人組と同様に、聞く児童にもブロック操作しながら聞くように指示する。</p> <p>○ どちらの方法でも計算できることを確認した後、減加法の方が簡単に計算できることを理解できるようにするために、共通点や相違点を板書し、模範のブロック操作をする。</p>
<p>ふりかえる ⑩</p>	<p>5 本時学習をまとめる。 【見直しの活動②】</p> <p>(1) 振り返り問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11-9 <p>(2) 「ふりかえりコーナー」を書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>記述例</p> <p>2つのけいさんをしたけど、[ひくたすけいさん]のほうがよい。</p> </div> <p>(3) 本時学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ</p> <p>12-9のけいさんは、10のまとまりからいちどにひくとよい。</p> </div>	<p>○ 本時学習のよさを確認するために、数値を変えた振り返り問題を用意する。</p> <p>○ 自力解決させ、減加法のよさを味わうことができるようにする。</p> <p>○ 「ふりかえりコーナー」に、分かったことやできるようになったことを書かせることで、自分の学習を振り返ることができるようにする。</p>

5 本時 (3/14) 1年〇組教室にて

指導者

6 本時の目標

- 減数が8の場合の減法計算の仕方を考えることができる。(数学的な考え方)
- 減数が8の場合でも、10のまとまりから1位数を引けばよいことを理解する。(知識・理解)

7 本時指導の考え方

本時のねらいは、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法で、被減数を分解して計算する方法(減加法)の理解を確実にすることである。

児童は前時に、減数が9の場合の繰り下がりのある減法について、減加法を用いて計算している。本時では、減数が8のときでも減加法が使えるかどうかを確かめることを通して、減加法の計算の確実な理解を図りたい。

そこで、本時の目標の達成を図り、算数科における基礎・基本を身に付けることができるようにするために、見通し・見直しの活動において以下の手だてを考えた。

【つかむ段階における「見通しの活動」の工夫】

- ① 前時学習の内容を掲示し、減加法を使うと速く答えを求めることができたのを思い出させる。
- ② 前時までと同じように、児童が興味・関心をもつように、児童にとって身近な食べ物を使った「のこりはいくつ」という学習問題を設定する。
- ③ 問題文を読み、分かっていることや尋ねられていることについて印を付けさせる。
- ④ 自分の考えをはっきりさせるために、2色のカードで計算の仕方を表示させる。

【ふかめる段階における「見直しの活動①」の工夫】

- ⑤ 2人組で行う少人数交流を取り入れ、一人一人が自分の考えを説明することで、お互いの考えを理解し合うことができるようにする。一方、聞く方の児童は、実際に相手の操作を見て真似をすることで、自分の考えとの異同をはっきりさせたり、友達の考えのよさを理解させたりする。
- ⑥ 少人数交流のあと、全体による交流を取り入れる。この時も聞く児童は、発表児童の真似をし、自分の考えの強化や友達の考えとの違いに気付くことができるようにする。

【ふりかえる段階における「見直しの活動②」の工夫】

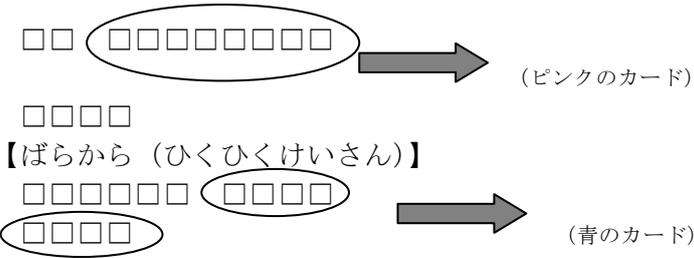
- ⑦ 本時学習のよさ(減数が8のときも、被減数を分解して計算する)を実感できるように、減数の数値を変えた振り返り問題に取り組みせ、解けた達成感や満足感を味わうことができるようにする。
- ⑧ 減加法のよさをおさえるために、学習プリントの「ふりかえりコーナー」に、学習して分かったことやできるようになったことについて記述させ、まとめにつなぐことができるようにする。

8 準備

教師・・・絵図、おかしの模型、学習プリント、ブロック、既習の掲示物
児童・・・ブロック、カード【青・ピンク色】

9 本時の展開

段階	学習活動と内容	教師の働きかけ(太字は研究に関わる働きかけ)
つかむ ⑩	<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <p>(1) 問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>がくしゅうもんだい</p> <p>おみせにプリンが 14こ あります。ぱっくんが、8こ かい ました。<u>のこりのプリン</u>は □ですか。</p> </div> <p>(2) 立式する。</p> <p style="text-align: center;">14－8</p> <p>(3) 本時のめあてを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて</p> <p>14－8のかんたんなけいさんのしかたをかんがえよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題文と一緒に絵図やプリンの立体模型を提示し、学習内容に興味をもち、問題場面を理解できるようにする。 ○ 大事な数や演算を決める言葉、尋ねてある文、単位に印をつけさせ、立式することができるようにする。

	<p>2 解決の見通しをもつ。 【見通しの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほうほう ひくたすけいさんをする。 ひくひくけいさんもつかえそう。 ・どうぐ ブロックを使う。図をかく。 ・こたえ 6こ？ 	<p>○ 本時の学習につながる既習内容や解決方法を明記した掲示物を活用し、見通しをもつことができるようにする。</p>
<p>つくる ⑩</p>	<p>3 見通した方法をもとに自分の考えをつくる。 (1) ブロックを使って操作する。 (2) 操作したことを図や式、言葉に表す。 【10のまとめりから (ひくたすけいさん)】</p>  <p>【ばらから (ひくひくけいさん)】</p> 	<p>○ 自分の考えを表現できるように、ブロック図をかいた学習プリントを用意する。</p> <p>○ はじめから図や言葉で考えた児童にも、必ずブロックを操作しながら手順を確かめることを指示しておく。</p> <p>○ 机間指導を行い、自分の考えがつかれない児童に対してブロックの動かし方を支援する。</p> <p>○ 「ひくたす・ひくひく」の計算の違いを区別することができるように2色のカードを活用する。</p>
<p>ふかめる ⑮</p>	<p>4 考えを交流する。 【見直しの活動①】</p> <p>(1) 計算の仕方を2人組で発表し合う。</p> <div data-bbox="263 963 845 1153" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発表例 (減加法の場合)</p> <p>はじめに、14を10と4に分けて置きます。はい、どうぞ。</p> <p>次に10のまとめりから8を引いて2。はいどうぞ。</p> <p>最後に残りの2と4を足して6。はいどうぞ。</p> <p>だから答えは6こです。はいどうぞ。</p> </div> <div data-bbox="263 1198 845 1388" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発表例 (減々法の場合)</p> <p>はじめに、14を10と4に分けて置きます。はい、どうぞ。</p> <p>次にばらから4を引いて10。はいどうぞ。</p> <p>最後に10のまとめりから残りの4を引いて6。はいどうぞ。</p> <p>だから答えは6こです。はいどうぞ。</p> </div> <p>(2) 計算の仕方を全体で話し合い、友達のを考えをブロック操作をしながら聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひくたすけいさんで ・ひくひくけいさんで <p>(3) どちらがやりやすいかについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひくたすけいさんのほうがかんたん。 ・ひくたすけいさんのほうがわかりやすい。 	<p>○ 言葉で説明した後、ブロックを操作するように事前に指示しておく。</p> <p>○ 聞く方の児童にも、友達のを実際にブロック操作して体験させることで、自分の考えと友達のを考えとの異同を理解できるようにする。</p> <p>○ ブロック操作や説明が途中でつまずいている児童には、プリントの説明の順序をもとに交流させる。</p> <p>○ 2人組の時と同様に、聞く方の児童にもブロック操作しながら聞くように指示しておく。</p> <p>○ どちらの方法でも計算できることを確認した後で、答えが速く求められる減加法のよさの理解をブロック操作で確かめる。</p>
<p>ふりかえる ⑩</p>	<p>5 本時学習をまとめる。 【見直しの活動②】</p> <p>(1) 振り返り問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $12 - 8$ <p>(2) 「ふりかえりコーナー」を書く。</p> <div data-bbox="247 1792 949 1892" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>記述例</p> <p>きょうも「ひくたすけいさん」のほうが、わかりやすかった。</p> </div> <p>(3) 本時学習をまとめる。</p> <div data-bbox="247 1937 949 2049" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ</p> <p>$14 - 8$のけいさんは、ひくたすけいさんのほうがわかりやすい。</p> </div>	<p>○ 数値を変えた振り返り問題に取り組ませ、本時の学習を確認する。</p> <p>○ 自力解決させることで減加法のよさを味わうことができるようにする。</p> <p>○ 「ふりかえりコーナー」に分かったことやできるようになったことを書かせ、自分の学習を振り返ることができるようにする。</p>

5 本時 (6 / 14) 1年〇組教室にて 指導者 (T1)
(T2)

6 本時の目標

- 減数が小さい場合は、減数を分けて「10 といくつ」のばらから取り除くと計算しやすいというよさに気付くことができる。 (数学的な考え方)
- 11 から 18 までの数から1位数をひく繰り下がりのある減法で、減数を分解して計算する方法(減々法)について理解する。 (知識・理解)

7 本時指導の考え方

本時のねらいは、減数が小さい繰り下がりのある減法で、減数を分解して計算する方法(減々法)について理解することである。

児童は前時まで、減加法と減々法について、それぞれに「ひくたすけいさん」「ひくひくけいさん」というネーミングをし、 $12 - 9$ や $14 - 8$ の計算では、減加法の方が速く簡単に計算できることを学習してきた。しかし、減々法のよさや、こういった場面で活用すると便利かという理解までには至っていない。

そこで、本時の目標の達成を図り、算数科における基礎・基本を身に付けることができるようにするために、見通し・見直しの活動において以下の手だてを考えた。

【つかむ段階における「見通しの活動」の工夫】

- ① 児童が興味・関心をもつように、児童にとって身近な食べ物を学習問題に設定する。
- ② 児童が課題に対して抵抗なく取り組むことができるように、前時と同じ題材で学習問題を設定する。
- ③ 減々法も使えそうだという見通しをもたせるために、おかしの模型を使って12から3を実際にとったり、ブロックを使っておためし操作をしたりする活動を取り入れる。
- ④ 自分の立場をはっきりさせるために、2色のカードで計算の仕方を表示させる。

【ふかめる段階における「見直しの活動①」の工夫】

- ⑤ 児童が、いろいろな考え方を知ったり、説明の仕方を学んだりできるように、2人組で行う少人数交流を取り入れる。その際、話し手は、筋道立てた表現力を身に付け、説得力をもたせるために、「は(はじめに)・つ(つぎに)・さ(さいごに)・だ(だから答えは)」の話し方を指導する。一方、聞く方の児童は、友達の考えのよさを理解したり、自分の考えとの異同をはっきりさせるために、実際に相手の操作を見てその操作の真似をさせる。
- ⑥ 全体での交流の場面では、自分の考えの強化や友達の考えとの違いに気付くことができるようにするために、減加法・減々法それぞれのやりかたで計算した児童のかいた図をもとに、その考え方をブロック操作や式で確認する。
- ⑦ 減々法のよさに気付くことができるようにするために、ブロック操作の速さや計算式の分かりやすさなどの視点を与える。

【ふりかえる段階における「見直しの活動②」の工夫】

- ⑧ 本時学習のよさ(減数が小さい時は、減数を分解して計算する)を実感できるように、数値を変えた振り返り問題に取り組ませ、本時学習の考えのよさを味わわせる。
- ⑨ 減々法のよさを振り返るために、学習プリントの「ふりかえりコーナー」に、今日の学習で分かったことを記述させ、その発表をもとに学習をまとめ、達成感をもたせる。

8 準備

教師・・・絵図、おかしの模型、学習プリント、ブロック、既習の掲示物
児童・・・ブロック、カード

9 本時の展開

段階	学習活動と内容	教師の働きかけ (太字は研究に関わる働きかけ)
つかむ	1 本時のめあてをつかむ (1) 問題をつかむ がくしゅうもんだい おみせに、ケーキが12こありました。 ⑩ ぱっくんが、3こかいました。 のこりのケーキは、なんこですか	○ 児童が興味・関心をもつように、食べ物の問題を設定する。 ○ 既習との違いに気付けるように、問題文に印を付けるように指示し、板書する。

	<p>(2) 立式する。 12 - 3</p> <p>(3) 本時のめあてを考える。</p>	<p>○ 既習との違いをはっきり意識させるために、第2時の12-9の掲示物を提示する。</p>
	<p>めあて 12-3のけいさんのしかたをかんがえよう。 ひくかずがちいさい</p>	
	<p>2 解決の見通しをもつ。 【見通しの活動】</p> <p>A ひくたすけいさんをする。 (ピンクのカードを机に置く)</p> <p>B ひくひくけいさんをする。 (青いカードを机に置く)</p>	<p>○ 既習の考えに着目できるように、学習の宝をカードにして掲示しておく。</p> <p>○ 減々法も使えそうだという見通しをもつことができるように、実際に、ケーキの模型を3こ取らせたり、ブロックでおためし操作をさせたりする。</p>
つくる⑩	<p>3 見通しにそって自分の考えをつくる。</p> <p>A ひくたすけいさんをする。 □□□□□□□□ </p> <p>B ひくひくけいさんをする。 □□□□□□□□ </p>	<p>○ ブロック図をかいた学習プリントを用意し、一人一人が自分の考えを図にかいたり、言葉で説明したりしながら考えることができるようにする。</p> <p>○ 活動が停滞している児童には減加法か減々法のどちらかで書くように助言する。(T2)</p>
ふかめる⑮	<p>4 考えを交流する。 【見直しの活動①】</p> <p>(1) 計算の仕方を2人組で発表し合う。</p> <p>A ひくたすけいさんの発表例</p> <div data-bbox="295 952 853 1108" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>はじめに、12を10と2に分けておきます。はい、どうぞ</p> <p>次に、10のまとまりから3をひいて7。はい、どうぞ。</p> <p>最後に、残りの7と2をたして9。はい、どうぞ。</p> <p>だから、答えは9こです。はい、どうぞ。</p> </div> <p>B ひくひくけいさんの発表例</p> <div data-bbox="295 1142 853 1299" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>はじめに、12を10と2に分けておきます。はい、どうぞ。</p> <p>次に、ばらのほうから2をひいて10。はい、どうぞ。</p> <p>最後に、10から残りの1をひいて9。はい、どうぞ。</p> <p>だから、答えは9こです。はい、どうぞ。</p> </div> <p>(2) 計算の仕方を全体で話し合う。</p> <p>A ひくたすけいさんです。</p> <p>B ひくひくけいさんです。</p> <p>(3) それぞれの計算のよさを話し合う。</p> <div data-bbox="295 1456 853 1657" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ア ひくたす計算の方が1度に引ける。</p> <p>イ ひくたす計算の方が、式が2つで分かりやすい。</p> <p>ウ ひくひく計算の式が、今までより簡単。</p> <p>エ ひくひく計算は、ブロックを2つと1つ取るだけで、答えがばつと分かる。</p> </div>	<p>○ 2人組で、各々が自分の考えを説明できる場を取り入れることで、児童が、いろいろな考え方を知ったり、説明の仕方を学んだりできるようにする。</p> <p>○ 自分の考えと友達考えの異同に気付くことができるように、友達考えを聞く時は、一緒にブロックを操作しながら聞くように指示する。</p> <p>○ 操作や説明が途中で止まったり、分からなくなったりしている児童は、学習プリントの「は・つ・さ・だ」の話し方で発表するように助言する。(T2)</p> <p>○ 代表児の発表もブロック操作をしながら聞くように指示する。</p> <p>○ 計算の手順を式に表し、板書する。</p> <p>○ ア・イは、児童の考えとして予想されるが、ウ・エについては、教師の方から比べる視点を与え、減々法のよさに気付くことができるようにする。</p>
ふりかえる⑩	<p>5 本時学習をまとめる。 【見直しの活動②】</p> <p>(1) 振り返り問題を解く。 ・ 11 - 2</p> <p>(2) 「ふりかえりコーナー」を書く。</p> <div data-bbox="295 1836 853 1926" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・ わたしは、最初、ひくたす計算をしたけど、ひくひく計算でも、わかりやすく計算できるとわかりました。</p> </div> <p>(3) 本時学習をまとめる。</p> <p>まとめ 12-3のけいさんは、ばらからひく、ひくひくけいさんでも、かんたんにできる。</p>	<p>○ 減々法のよさを確かめることができるように、11-2を減々法で取り組ませるようにする。</p> <p>○ 減々法で取り組むことが難しい児童には、ブロックで指導する。(T2)</p> <p>○ 今日の学習で、分かったことを書かせ、まとめにつなげるようにする。</p>